

～下記の研究を行います～

『当院 ICU におけるせん妄アセスメントスケール (ICDSC) の使用状況調査と有用性についての検討』

【研究責任者】看護部 ICU 高見 有希

【研究の目的】せん妄評価スケールである ICDSC (Intensive Care Delirium Screening Checklist) は導入時期が明確にされておらず、当院 ICU ではせん妄発症時に ICDSC をスコアリングしている現状がある。過去使用された ICDSC と危険行動の関連性について現状を明らかにする。ICDSC で評価される 8 項目の評価シートを以下に示す。

**Intensive Care Delirium Screening Checklist (ICDSC)**

このスケールはそれぞれ 8 時間のシフトすべて、あるいは 24 時間以内の情報に基づき完成される。明らかな徴候がある = 1ポイント：アセスメント不能、あるいは徴候がない = 0ポイントで評価する。それぞれの項目のスコアを対応する空欄に0または1で入力する。

<p><b>1.意識レベルの変化</b>                  (A)反応がないか、(B)何らかの反応を得るために強い刺激を必要とする場合は評価を妨げる重篤な意識障害を示す。もしほとんどの時間(A)昏睡あるいは(B)昏迷状態である場合、ダッシュ(-)を入力し、それ以上評価を行わない。                  (C)傾眠あるいは、反応までに軽度ないし中等度の刺激が必要な場合は意識レベルの変化を示し、1点である。                  (D)覚醒、あるいは容易に覚醒する睡眠状態は正常を意味し、0点である。                  (E)過覚醒は意識レベルの異常と捉え、1点である。</p>	
<p><b>2.注意力欠如</b>                  会話の理解や指示に従うことが困難。外からの刺激で容易に注意がそらされる。                  話題を変えることが困難。これらのうちいずれかがあれば1点。</p>	
<p><b>3.失見当識:時間</b>                  場所、人物の明らかな誤認。これらのうちいずれかがあれば1点</p>	
<p><b>4.幻覚、妄想、精神障害</b>                  臨床症状として、幻覚あるいは幻覚から引き起こされていると思われる行動（たとえば、空を掴むような動作）が明らかにある。現実検討能力の総合的な悪化。これらのうちいずれかがあれば1点。</p>	
<p><b>5.精神運動的な興奮あるいは遅滞</b>                  患者自身あるいはスタッフへの危険を予防するために追加の鎮静薬あるいは身体抑制が必要となるような過活動（たとえば、静脈ラインを抜く、スタッフをたたく）。活動の低下、あるいは臨床で明らかな精神運動遅滞（遅くなる）。これらのうちいずれかがあれば1点。</p>	
<p><b>6.不適切な会話あるいは情緒</b>                  不適切な、整理されていない、あるいは一貫性のない会話。                  出来事や状況にそぐわない感情の表出。これらのうちいずれかがあれば1点。</p>	
<p><b>7.睡眠/覚醒サイクルの障害</b>                  4時間以下の睡眠、あるいは頻回な夜間覚醒（医療スタッフや大きな音で起きた場合の覚醒を含まない）。ほとんど1日中眠っている。これらのうちいずれかがあれば1点。</p>	
<p><b>8.症状の変動</b>                  上記の徴候あるいは症状が24時間のなかで変化する（たとえば、その勤務帯から別の勤務帯で異なる）場合は1点。</p>	

Bergeron N, et al: Intensive Care Delirium Screening Checklist : evaluation of a new screening tool. Intensive Care Med, 27(5) : 859-864, 2001. より著者の許可を得て逆翻訳法を使用し翻訳

翻訳と評価 柳野木健\*、水谷太郎\*\*、櫻本秀明\*\*\*

\*聖路加看護大学、\*\*筑波大学大学院人間総合科学研究科、\*\*\*筑波大学附属病院ICU

【研究の期間】 研究許可日～2022年3月31日

【研究の方法】

●対象となる患者さん

・2019年4月から2020年3月の間に当院のICUに入室された患者さん

●研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：患者さんの性別や年齢、既往歴、手術の種類、採血データ、危険行動の有無、危険行動をとった患者さんへの対応策、ICDSCの得点と推移等

【研究の資金源】

なし

【利益相反】

臨床研究における利益相反（COI(シーオーアイ)：Conflict of Interest）とは、「主に経済的な利害関係によって公正かつ適正な判断が歪められてしまうこと、または、歪められているのではないかと疑われかねない事態」のことを指します。具体的には、製薬企業や医療機器メーカーから研究者へ提供される謝金や研究費、株式、サービス、知的所有権等がこれにあたります。

なお、本研究の利益相反については、当院の利益相反審査委員会で審査され適切に管理されています。

◎本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

◎ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

◎情報等が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

国立病院機構大阪医療センター

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2丁目1-14

TEL (06) 6942-1331 (代)

研究責任者 看護部ICU・看護師 高見 有希